

関係機関・団体・課・室長 様

兵庫県農政環境部長

平成27年度 兵庫県農業気象技術情報第5号（9月情報）について（送付）

このことについて、下記のとおり情報を作成しましたのでお送りします。

記

1 気象経過・予報から想定される栽培上の留意点と対応策

作物	地域	栽培上の留意点	対応策
水稲	全県共通	<p>1 生育状況</p> <p>県北部の極早生品種コシヒカリの出穂期は平年並みで、草丈は短く、茎数がかかり多い。8月上旬の平均気温が平年より高く、28℃以上になっており、7月5半旬頃に出穂した場合は、高温障害による白未熟粒の発生が懸念される。</p> <p>県南部の出穂期は極早生品種のキヌヒカリは平年並み、中生品種のヒノヒカリ、晩生品種の山田錦も平年並みの見込みである。草丈は平年並みで、茎数は少ない。</p> <p>成熟期も平年並みと考えられる。</p>	<p>1 生育状況</p> <p>落水まではできるだけ飽水管理に努める。水が少ない場合は走り水でも良い。ほ場の乾燥状況に注意して、収穫作業に支障のない限り、落水時期は刈り取り7日前を目安とする。</p> <p>適期刈り取りを行う。適期刈り取りの目安は、稔実もみの85%（山田錦は90%）が黄化したときである。特に極早生品種は胴割れ防止のため、玄米水分の低下に留意し、刈り遅れに注意する。黄化もみ率は正常穂で判定すること。</p> <p>乾燥にあたっては必ず水分チェックを行い、急激な乾燥は避ける。</p> <p>外気温が高いとき、乾燥設定温度が低いと、乾燥時間が長引いて、品質が低下することがある。</p>
		<p>2 病害虫</p> <p>(1) 穂いもちについては平年並みの発生と予想される。向こう1か月の気温は平年並み～やや低い、降水量は平年並み～やや多いと予想されており、葉いもちの目立ったほ場、多肥により葉色の濃いほ場、山間部の日照の少ないほ場などでは発生がやや多くなると予想される。</p> <p>(2) 紋枯病は現在平年並の発生である。しかし、気象条件により、急激に病勢進展する可能性があり、普通期においては注意が必要である。向こう1か月の気温は平年並み～やや低い、降水量は平年並み～やや多いと予想されており、ほ場によっては多発する場合もあると思われる。</p>	<p>2 病害虫</p> <p>(1) ほ場及び周辺ほ場をよく見回り、発生状況を確認する。すでに葉いもち病斑がある場合は、箱施用剤の効果は切れているので、穂へ感染する可能性が高く、十分に注意が必要である。防除は、薬剤の種類と散布時期に注意する。</p> <p>(2) ほ場をよく見回り、適宜農薬散布を行う。また、多発ほ場では早めに秋すきを行い、越冬菌核の減少を図る。</p>

作物	地域	栽培上の留意点	対応策
水稲	全県共通	<p>(3) ウンカ飛来予測システム（JPP-NET）によると、7月上～中旬に飛来波が認められているが、兵庫県内の予察灯および本田におけるトビロウンカの発生は未確認である。しかし、今後も発生の可能性があるため、注意する。</p> <p>(4) 斑点米カメムシ類は、現在、やや少ない発生であるが、予察灯およびフェロモントラップへの誘殺も増加が見られ始めている。向こう1か月の気温は平年並み～やや低いと予想されており、本虫の発生は平年並みと予想される。</p>	<p>(3) 収穫期が10月以降になる作型（ヒノヒカリ・山田錦等）や無防除ほ場においては、坪枯れが生じる可能性が高い。8月下旬～9月上旬における本虫の密度が要防除水準（成・幼虫5頭/株）を超える場合は速やかに防除を実施する。</p> <p>(4) 斑点米カメムシ類は、穂揃期に防除を徹底して行う。ヒエの穂やホタルイの小穂が発生源となるため、特にヒエやホタルイの発生ほ場は防除を行う。</p>
大豆	全県共通	<p>1 生育状況 降雨の影響により、発芽不良、茎葉の傷み、湿害で生育がやや遅れているほ場も一部ある。</p> <p>2 病害虫 (1) 9月に入り気温が低下し、降雨が増加すると黒根腐病等立枯性病害の発生が増加する可能性がある。特に台風等で冠水したほ場では注意が必要である。</p> <p>(2) フタスジヒメハムシの発生はやや少なく、今後もやや少ないと予想される。</p> <p>(3) カメムシ類の発生はやや少ないが、今後、平年並みで推移すると予想される。</p> <p>(4) ハスモンヨトウはやや少ない発生であるが、今後、平年並みの発生になると予想される。</p>	<p>1 生育状況 降雨による滞水がないように、ほ場の排水を良くする。一方、土壌が乾燥する場合は、走り水等により土壌水分を一定に保ち、莢伸長や子実肥大が順調に進むよう努める。</p> <p>2 病害虫 (1) ほ場の排水対策を行い、発病しにくい環境を作る。</p> <p>(2) ほ場をよく観察し、必要に応じて適切に薬剤を散布する。</p> <p>(3) 開花・着莢期を迎えると、莢の吸汁に飛来するカメムシ類の発生状況を注視し、適切に薬剤を散布する。</p> <p>(4) ほ場を良く観察し、ハスモンヨトウによる白変葉の発生に注意を払い、適切に薬剤を散布する。</p>

作物	地域	栽培上の留意点	対応策
キャベツ	千葉県共通	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 近年、ゲリラ豪雨の発生が多く、冠水や降雨に伴う作業の遅れが懸念される。</p> <p>(2) 定植後、降雨がない場合は、灌水不足による活着や生育不良が懸念されるため、欠株の防止が必要である。</p> <p>2 病害虫</p> <p>(1) ハイマダラノメイガの発生はやや少ないが、今後、平年並みで推移すると予想される。</p> <p>(2) ハスモンヨトウの発生はやや少ないが、今後、平年並みで推移すると予想される。</p>	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 週間予報などを参考に作業計画を立てる。排水溝の点検を常に行い、特に台風や大雨の前には溝をさらえておく。冠水時は早期の排水に努める。</p> <p>(2) 定植後は、灌水チューブ等で十分灌水し、活着と初期生育を促進させる。乾燥時の中耕は浅めに行う。</p> <p>2 病害虫</p> <p>(1) キャベツなどアブラナ科野菜の育苗期および定植直後の加害は被害が大きいため、不織布や寒冷紗などにより本虫の飛来を避ける。</p> <p>(2) ほ場をよく観察し、適切に薬剤を散布する。</p>
果樹	千葉県共通	<p>1 生育</p> <p>(1) 適度な土壌水分を維持する。</p> <p>(2) 適期収穫に努める。</p> <p>(3) 樹種や樹勢に応じた収穫後の管理に努める。</p>	<p>1 生育</p> <p>(1) 高温、乾燥が続く場合は、灌水、敷きわらなど乾燥防止対策を行う。過度の灌水は避ける。</p> <p>(2) カラーチャートや糖度計等を活用し、果皮色、糖度、酸含量、果実の硬さ等から収穫適期を判断する。</p> <p>(3) 樹勢の回復、次年度に向けた貯蔵養分の蓄積を目的に枝管理や礼肥施用をする。</p>
樹種別の生育状況			
		クリ	開花が早かったことと、8月中旬以降の気温低下により早生の成熟期は平年比で1週間程度前進している。低温傾向が続くと中生以降の成熟期も早まる見込み。
		ブドウ	成熟期はやや早いですが、降雨や気温の影響により、着色や減酸はやや不良で、裂果の発生もみられる。
		ナシ（青ナシ）	生育は順調で熟期は早い。糖度も平年並み～やや高い。
		イチジク	生育は平年並みもしくはやや早い。雨量が多いため、大果、低糖傾向で、腐敗果が発生している。
		温州ミカン	開花期が早く、果実の生育は良好であり、減酸が早めに進んでいる。

作物	地域	栽培上の留意点	対応策
果樹 樹続き	全 県 共 通	<p>2 台風対策 台風の接近に対する備えを行う。</p> <p>3 病害虫 (1) 現在、病害虫の発生は少ないが、今後の降雨による病害の増加が懸念される。特にナシ（青ナシ）の黒斑病、イチジクの腐敗果等病害の発生が懸念される。</p> <p>(2) 果樹カメムシ類は現在のところやや少ない発生であるが、今後は、平年並みの発生で推移すると考えられる。</p>	<p>2 台風対策 枝折れ防止のため、枝の結束や支柱を強化する。防風ネットの補強に努め、葉ずれ等による傷果の発生を減らす。 収穫可能な果実はできる限り収穫しておく（農薬使用基準に留意）。 雨水が速やかに園外に流れるよう、排水溝、排水口の点検をする。</p> <p>3 病害虫 (1) 病害の発生に注意し、適切な防除に努める。殺菌剤の臨機防除を行う（ナシ、イチジク）。腐敗果を早めに処分し、病菌を媒介するシヨウジョウバエ類の発生を防ぐ（イチジク）</p> <p>(2) ほ場をよく観察し、今後の発生に注意する。</p>

◎野菜・果樹の情報については、原則2ヶ月ごとに作成します。

◎防除については「病害虫発生予察情報」及び「兵庫県農薬情報システム」を参考にすること。

※本情報は、8月26日時点のデータを元に作成しています。

## 2 気象予報

(1) 近畿地方の向こう1か月予報（8月29日～9月28日）

[平成27年8月27日 大阪管区气象台発表]

【概要】天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並または低い確率ともに40%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、低い確率50%です。2週目は、平年並または低い確率ともに40%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

### 【確率】

○気温、降水量及び日照時間

【近畿地方】		■低い(少ない)	■平年並	■高い(多い)	(単位:%)
気温	40	40	20		
降水量	20	40	40		
日照時間	40	40	20		

○各週の気温経過

【近畿地方】		■低い	■平年並	■高い	(単位:%)
1週目	50	40	10		
2週目	40	40	20		
3～4週目	20	40	40		

(2) 近畿地方の向こう3か月予報 (9月～11月)

[平成27年8月25日 大阪管区気象台発表]

【概要】この期間の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

9月 天気は数日の周期で変わるでしょう。

10月 天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。

11月 近畿日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。気温は、高い確率50%です。降水量は、近畿太平洋側で平年並または多い確率ともに40%です。

【確率】

○気温

【近畿地方】	■低い	■平年並	■高い	(単位:%)
3か月	20	40	40	
9月	30	30	40	
10月	30	40	30	
11月	20	30	50	

○降水量

【近畿日本海側】	■少ない	■平年並	■多い	(単位:%)
3か月	30	40	30	
9月	30	40	30	
10月	40	40	20	
11月	30	30	40	

【近畿太平洋側】	■少ない	■平年並	■多い	(単位:%)
3か月	30	40	30	
9月	30	40	30	
10月	40	40	20	
11月	20	40	40	

※ 気温・降水量・日照時間は低い・平年並・高い(少ない・平年並・多い)の3階級で予報されます。階級の幅は、平年値の作成期間(1981～2010年)における各階級の出現率が33%となるように決めてあります。

ホームページアドレス

- ・「病虫害発生予察情報」  
<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>
- ・「兵庫県農薬情報システム」  
<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>
- ・「Web 水稲生育予測システム」  
<http://www.aginfo.jp/RGP/>
- ・「携帯用水稲生育予測」  
<http://www.finds.jp/ricediag/kt/index.php>

問い合わせ先

本情報に関すること

- ・兵庫県農政環境部農林水産局農産園芸課 TEL (078) 341-7711(代表)  
農産班: 農産担当 内線 4065  
農産班: 産地育成担当 内線 4054  
花き果樹班 内線 4066

技術内容に関すること

- ・県立農林水産技術総合センター  
企画調整・経営支援部 TEL (0790) 47-2435  
農業技術センター 農産園芸部 TEL (0790) 47-2410  
農業技術センター 病虫害部 TEL (0790) 47-1222  
北部農業技術センター 農業・加工流通部 TEL (079) 674-1230  
淡路農業技術センター 農業部 TEL (0799) 42-4880

兵庫県ホームページでも本情報を公開しています。

URL : [http://web.pref.hyogo.lg.jp/af11/af11\\_000000097.html](http://web.pref.hyogo.lg.jp/af11/af11_000000097.html)  
(兵庫県トップページ>食・農林水産>農業>農作物>農業気象技術情報)